



【写真】杉森家アルバムから「連合歌友会記念写真」（個人蔵）

今回紹介するのは、杉森高校創始者杉森シカのアルバムに残されていた写真です。大きな松など樹木が茂っている庭で、49人が「連合歌友会」の看板の前に写っています。この写真には別に名字が記録されているので、誰が参加したのか判別できる貴重な史料です。柳河の人物としては立花寛治夫人、立花鑑徳夫人、艶子のほか、宮川千幹、杉森シカ、樺島濤来、石田昌が判明しますが、撮影時期ははっきりとしません。

連合歌友会は、いくつかの歌会が集まって開催したもので、始まった時期は不明です。昭和15（1940）年11月の柳河新報の「第39回両筑連合歌友会」の記事から、定期的に開催されていたことが分かります。関連の記事によると、歌友会には柳河の白縫会や山門会のほかに、福岡舞鶴会、福陵会、久留米千年会といった筑前・久留米地方の団体も参加していたようです。白縫会は、明治22（1889）年6月、石田昌が創設します。柳河最後の藩主立花鑑寛の援助を受け、旧柳河藩士の子女が参加しました。この会に杉森シカが所属

## 連合歌友会の記念写真

柳川古文書館長 江島 香

加して、シカも連合歌友会に参加した結果、ここに記念写真が残ったのでしよう。

石田昌は元治元（1864）年、現在の柳川市大和町鷹ノ尾の廻船業を営む家に生まれました。明治15年に上京して国学や和歌を学び、歌人として頭角を現しました。その後、家の事情で郷里に戻り、山門郡役所や山門郡農会で働きました。仕事のかたわら、郷土史研究を進めるとともに、昭和23年に亡くなるまで、地域歌壇の指導にあたりました。

『朱鸞』という冊子に収録された杉森シカの日記を見ると、白縫会の活動についての記事が散見されます。例えば昭和9年2月に、車4台を連ねて太宰府を参詣したことが書かれています。また昭和17年7月には、白縫会の撰者を、石田昌に依頼したことも記されています。

立花鑑寛は幕末の動乱の時代に、家臣とともにたくさんの和歌を詠んでいますが、そうした文芸の隆盛が、明治以降も脈々と受け継がれていたことをこの写真から見るができます。

市史編集委員会では、数年後に写真を中心とした本を刊行する予定です。現在さまざまな写真や絵はがきなどを集めています。隔月1日号に、同委員会で集めた写真を紹介します。【問】市生涯学習課市史編さん係 ☎72・1275

## ひとを結ぶ。まちを結ぶ。 column No.93 地域おこし協力隊

家族で訪れた思い出の川下り



## 柳川の魅力を SNS で多くの人に発信

5月から地域おこし協力隊に就任しました堤です。観光課に所属し、観光プラットフォーム構築業務や地域の魅力を最大限に活かす観光地域づくりに携わります。

堤という名前からか、「柳川生まれ?」とよく聞かれますが、生まれも育ちも兵庫県です。今年の3月まで大学で、観光やまちづくりを学んでいました。柳川は、10年ほど前に家族で川下りをした経験があります。その数年後、旅行で友人と九州を訪問し、「川下りしよう」と誘ったところ、友人は「何それ?」といった反応。思い出のある観光地なのに、知らない人がいることにショックでした。柳川には面白いコンテンツがあるのに、ネットやSNSで「福岡・観光」と調べても、なかなか情報が得られない。SNSなどを活用したPR活動をすれば、多くの人に柳川を知ってもらえるのではないかと考えています。これからは、自分の好きなことや得意なことを活かし、柳川に貢献していきますので、よろしくお願ひします。



New Face

堤 康二郎 (22歳)

【プロフィール】市観光課に所属。観光プラットフォーム構築を担当

「映えない私写真講座」で撮影した写真



## 初めてのゆるり旅で新しい発見

3月に水郷柳川ゆるり旅のプログラム、「映えない私写真講座」を企画しました。この企画はSNSなどで人に見せるための写真ではなく、「自分のために写真を撮りましょう」という内容の体験プログラムです。参加者と会話しながら柳川の街中を撮影すると、今まで知らなかった小さな道や建物など新しい発見があり、私自身もとても学びの多い時間となりました。

ゆるり旅は、着地型観光と呼ばれる地域資源を活用した体験プログラムです。昨今、観光客のニーズは多様化していて、各地で地域に根付いた体験が行われています。個人的には、有明海の夕日クルージングや有明海の海の幸を使った料理講座、発酵食品作りなど、楽しいメニューが増えていくといいなと思っています。

柳川の人でもなかなか見る機会のないことや、柳川の人には当たり前だけど外から見ると面白いことを、少しずつ形にしていきたいと考えています。



横山 真平 (35歳)

【プロフィール】市観光課に所属。観光プラットフォーム構築を担当